

## 令和6年度 学校教育自己診断結果について

### 《全体として》

生徒向け、保護者向け、教職員向け、全てにおいて回答数が R5 年度に比べて減少している。(生徒:R5・464→R6・374、保護者:R5・230→R6・149、教職員:R5・39→R6・19)母数の違いが目立つため、単一的な評価および分析とはいかないまでも、昨年度分析した質問項目を中心に分析を行っています。また、昨年度と比較して、「②ややあてはまる」の回答割合が「①よくあてはまる」や「③あまりあてはまらない」に分散する傾向が全体の半数近くの回答で見られたことも特徴です。

### (1)「確かな学力」の育成

本校では、「確かな学力」を保障するために、学習への興味・関心を持たせ、「わかる」授業づくりを通して基礎学力の定着、自ら学習する態度を養うこと。「主体的・対話的で深い学び」をめざし、自分で調べ、考え表現する力を育てる授業づくりをめざした。

#### 《授業に関して》

生徒アンケートの【質問5】で成績評価に関する項目で分散化が見られる。【質問1、2】で授業そのものについて、肯定的な評価の割合についてはほぼ前年度並みである。【質問6】についても、昨年度と同様に教員の指導方法についての評価に分散化が見える。教員アンケートの分析を行うと、生徒の回答傾向と同様に分散化かつ肯定的評価の割合が減少傾向にある。【質問 11:グループ学習を行うなど、学習形態の工夫・改善を行っている】(直近3年分の数値:88.9%→76.9%→72.3%)や【質問 12】、【質問 13】においても、同様の傾向にある。観点別評価への完全移行が済んだものの、先生方が授業の実施方法の模索に停滞している様子が伺えると同時に、そのことが生徒の反応にも出ているように感じる。

また、生徒アンケートの【質問 8:授業では体験を通して学ぶ機会がある】において、若干の回復傾向が見られた。(直近3年分の数値:64.2%→69.2%→73.4%)2022年度より新項目とした【質問 10:授業の中で、タブレット端末等を活用する機会がある】については、肯定的評価が82.8%(前年度:83.6%)となった。様々なアンケート実施も含めて、Chromebook を活用しての授業(プレゼン等)が進んできたことに一定の評価がなされたと考える。一方で、【質問 7:騒いだり私語したりする生徒はほとんどいない】では、引き続き課題がみられる数値となった。(直近3年分の数値:35.2%→31.7%→33.3%)3分の2の生徒が授業中の様子について消極的評価をしている。我々の投げかけも含めて、授業規律やマナーについて、学びに向かう環境づくりの一環としても継続した指導の必要があると感じた。

3年生のみを対象に行った総合学科に関する【質問 46~48】については、項目によって回答に変化が見られた。考える力【質問 47】がついたと感じる生徒が増える一方で、知識【質問 46】やプレゼンテーション能力【質問 48】がついたと感じる生徒の割合は減少している。定着には、もう少し工夫が必要だと考える。

### (2)将来の目標に向かって努力する生徒の育成

①基本的な生活習慣の形成を図り、規範意識の醸成、高校生として望ましい態度とマナーの育成するために、遅刻・欠席等の状況改善と授業規律の確立および生徒一人ひとりの課題を踏まえ、理解と納得に基づく生徒指導、  
②キャリア教育の充実を図り、進路意識を高め自己実現の支援を努めてきた。

#### 《生徒指導に関して》

生徒アンケートの【質問 15~17】についても、肯定的評価の分散化が見られた。また、生徒の反応が保護者にも伝わっていると感じる項目がある。保護者アンケートの【質問 11~13】で、肯定的な評価は平均して77%程度あるが、その一方で、保護者アンケートの【質問 9:高校の生徒指導の方針は、保護者に示されている】の肯定的な評価に大きな減少が見られる。一貫性や統一感の観点から保護者が疑問に思う部分がこの数値に表れているとも感じられる。関連性のある項目であっても、数値の上昇・下降が相反するものになっており、分析に少し戸惑う部分もある。生徒理解と生徒指導とは切り離して見られている部分もあるとも考えられるため、生徒指導に

対して生徒や保護者に教員の意図や思いを正しく伝えることの難しさを知る結果となった。加えて、生徒および保護者も含めた自由記述には、「きちんと指導してほしい」という声を昨年度以上に多くいただいた。指導の一貫性や伝え方、統一感(人によって言うことが違うなど)をもって指導にあたることが今後より一層必要になってくると考える。その為にも、教員間での根本的なコミュニケーションが必要だと考える。

#### 《進路指導に関して》

生徒アンケートの【質問 18～21】の全ての項目について昨年度より肯定的評価の割合が減少している。2021 年度からGSで卒業生等にお越しいただき、企業講話や上級学校講話等を取り入れ継続してきたことで、生徒自身、考える時間が増え、キャリア教育の拡充ができたと考える一方で、一定の認知はされているが、こちらが発信したものをいかに生徒が受け取ってくれているか、という部分に課題が見えたように感じる。このことについては、事前事後の学習方法等を含めて改善の余地があると考えます。

#### 《教育相談に関して》

生徒のアンケート【質問 23～24】のいずれについても高数値の肯定的評価を継続している。同様に保護者の回答を見ても、保護者アンケートの【質問 19:学校ははじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれている】についても肯定的評価が多い。(直近 3 年分の数値:77.4→76.6%→78.5%)【質問 14】や生徒のアンケートの【質問 22】についても、昨年度と同水準の評価が見られる。家庭環境や経済状況が多様化する中、SC、SSWやCCの活用も含めて教員が生徒の生活に寄り添った関わりを持つことも必要とされる。社会が時代と共に変化し、それに併せて子どもたちに求められていくものが変わってくる中で、時には厳しく、時には寄り添って生徒や保護者と向き合っていくことが今後一層必要になってくると考える。

### (3)安全安心で魅力ある学校づくり

自らの課題に向き合い、生徒同士がつながる取組みを推進するために、①生徒の協調性や自主性を育む集団づくり、校内環境の整備や部活動の活性化、②あらゆる教育活動を通じた人権教育や個別支援の必要な生徒の状況改善、③地域とつながる取組み等の推進を行ってきた。

#### 《伯太高校を選んだ理由に関して》

生徒アンケートの【質問 42:伯太高校を選んだ理由】では、昨年度に続いて【①総合学科だから】での数値上昇が見られるとともに、今回では【②学びたいエリアや授業があったから】で数値の上昇が見られた。先生方にご協力いただき、様々な場所で広報活動を続けてきたことが、この数値に表れていると考える。一方で【⑥友人も受験するから】の数値も増えている。「どこに行くか」ではなく、「誰と行くか」を重視している生徒もいる。そのためか、昨年度と同様に【質問 12:伯太高校の印象は、入学前とあまり変わらない】については肯定的評価が伸び、【質問 13:自分の学級は楽しい】や【質問 14:学校に行くのが楽しい】も昨年度に比べて数値が伸びている。

しかし、保護者の反応は、保護者アンケートの【質問 6】によると昨年度に比べて減少している。本人の捉え方と保護者の捉え方にもそれぞれ差があることが見て取れる。総じて考えると、家庭から見て学校や教員が子どもの様子を知るために必要な存在になっていることは、保護者アンケートの【質問 23～24】の肯定的な評価が若干回復している部分からも見てとれる。

#### 《人権教育に関して》

生徒アンケートの【質問 25～26】や【質問 29～30】で昨年度以上に肯定的な評価が増加している。GS やLHRでの活動を含め人権教育を行っていることで、「自分事」として捉えることができているように考えられる。今後も講演会などを通して、普遍的なテーマを基本としながら、生徒の様子や時代のニーズや変化に合わせて対応していくことが求められてくる。

#### 《学校行事に関して》

体育祭 80.9%(前年度:83.2%)、文化祭 89.5%(前年度:88.7%)の肯定的評価を得ることができた。修学旅行の94.0%(2年生、前年度:75.8%)については、実施後ということもあり、その満足感の表れと考える。保護者の反応としては、保護者アンケートの【質問 26:学校行事は積極的に参加できるよう工夫されている】では肯定的な評価が若干停滞した。(85.9%、R5・88.9%)学校行事等から得られる経験や満足感是非常に大きく、その後の進路実現に向けたアピールポイントとして大いに役立ててほしいと考える。